

税を正しく使うこと

甲斐市立玉幡中学校3年 田中 美有

「税金」という言葉を私は今まで耳にはしてはいたが、よく理解していなかった。

例えば、消費税やふるさと納税というものをテレビで見たりすることはあったが、それがどのように集められ、どのように使われているかは理解していなかった。調べた結果、これらの税金は、健康保険などの社会保障や、道路の建設などの公共事業に有効に使われていることが分かった。それと同時に、今、問題があることも分かった。日本では今、少子高齢化が起きていて、これがこのまま進んでいくと、年金などの社会保障は増えていくのに対し、社会保障を支給するために必要な税金を負担する働く人が少なくなってしまうのだ。これが起きると、国民に平等な支給ができなくなってしまうのだ。私は、これを少しでも解消するための方法を考えてみた。

一つ目は、日本の標準税率を他国みたいに上げることだ。デンマークやノルウェーなどの地域では、標準税率が日本の二倍以上、二十五パーセントなのである。しかし、上げるには日本国民の意識を変え、納得してもらわなければならないと思う。私は、日本国民は標準税率に対して、自分の稼いだお金を「取られる」というイメージを持っている人が多いように思う。実際、私もそういったイメージを持っていた。そういったイメージを持つ国民に納得してもらうには、ノルウェーなどを参考にした政策をやるべきだと思う。例えば、教育費を無料にする、医療費を無料にするといった政策だ。ただ、この政策を実現するには、幅広い年代の人と議論を重ね、政治家を中心に全国民が納得して税金を払えるような環境を整えるべきだと思う。

二つ目は、税金の無駄遣いをなくすべきだと思う。私の住んでいる甲斐市でも税金の無駄遣いが起こりそうになったことがある。私の市では、約三十九億円もの税金をかけ、バラ園を建設しようとしていた。この事業は、市民からの反対が多く中止になった。これは私が身近に体験した例である。このような事案は全国でも起きている。大阪府にある舞洲ゴミ処理場が例にある。ここはゴミ処理場であるにも関わらず派手な外観になっており、しかも、総工費は六〇九億円もの税金をかけている。このように、税金が本来は使わなくてもいい場面で使われることがある。私の住んでいる市のように市民の反対によっては、このような事案を防ぐこともある、と分かったのでテレビやメディアを通して正しい情報を手に入れ、冷静な判断をしたいと思った。

私はこの作文を通して、税についてさまざまな使い方があることが分かった。税を正しく使えば、国民が快適に過ごせることが分かったので、これからも税を正しく、国民のために使ってほしいと思った。